

【2月号：バナナの国で平泳ぎ】

< 再開したプール >

使用停止だった配属先のプールが2月2週目によく営業を再開しました。とは言っても、泳ぐ許可を出されたのは選手だけ。更衣室やトイレの設置が完了していないのが理由だそうです。何はともあれプール探しや移動費にける手間がなくなります。一安心・・・も束の間、練習許可にはきびしい制約があり、配属先は保護者の激しい怒りを買うことになりました。

まず、練習時間は午後3時半から夕方6時まで。「2時間半も練習できる！」と普通は思いますが、着替えや練習後に行く柔軟の時間を考えると2時間半はとても短い時間です。しかも6時きっかりにプールの敷地から出ないといけません。保護者の迎えを待つ選手が路上に放り出されることになり保護者はカンカンです。さらには保護者の練習見学禁止とプールの敷地内への侵入禁止令。堪忍袋の尾が切れた保護者たちは連盟への抗議文を作ったり、連盟の上位にあるスポーツ省に事情を説明して、状況改善を求めたりと必死です。中には水泳をやめさせた保護者もいます。

水泳部門に限ってですが、15歳以上は指導しない方針を掲げられていました。その上で、水泳人口の増加と国内での順位の上昇が僕に課された仕事です。普通に水泳教室を営業していれば、マチャラは暑い土地なので水泳人口は増えるでしょう。水泳が人気のスポーツであることは市内にあるプールの数から考えても明白です。ここに来て改めて普通がいかに難しいか思い知らされました。



←プールが使えない時に、ランニングやペアストレッチをして限られた時間を有効に使えるように工夫。赴任当初に比べてすごく体が軟らかくなりました!!

< 研修会 >

2月3週目の話です。隣の都市グアヤキルでエクアドルのコーチ達を招いた水泳の研修会を行いました。研修会にはエクアドル人コーチ約50名を含め、ボリビアからJOCVの隊員とそのカウンターパートが参加しました。

研修会は3日間で、昼食の休憩を挟んで午前9時から午後17時頃まで行われました。エクアドルの水泳隊員は3人で、それぞれが任地での活動成果をもとに2つのテーマを担当しました。座学や実習、実演などいかに聴き手を飽きさせないようにするかが工夫のしどころだったように思います。

私の担当は「年間計画の作成」と「初心者泳法の評価」でした。座学で始まり実習で閉めるのが講座の流れで、子供の指導と違いとてもスムーズに話を進めることができました。年間計画の作成では、1年をいくつかの期間に分ける手法や水泳には欠かせない持久力強化のトレーニング法などの紹介をしました。水泳は特定の期間ごとに強化ポイントを設定してトレーニングを行います。技術練習に特化する時期があれば、持久力に特化した練習を行う時期もあります。僕以外の2人はより専門的な講座を担当していたので、僕はいわば取っ掛かり役でした。「僕の講座がうまく行けば、その後の2人の講座が効率的に学べる。」つまりこういうことです。

準備には気を遣いました。その甲斐もあってか、講座中は多くのコーチが積極的に質問を投げかけてくれ、充実した時間を過ごすことができました。他2人の水泳隊員から僕自身もたくさんのお話を勉強させてもらいました。

座学はともかく、実習や実演はエクアドル国内ではなかなか機会が無いそうでとても好評でした。ボリビアから来たボランティアは普段標高3600mでトレーニングしているのと、一番若い水泳隊員ということで毎回の実演で活躍してもらいました。なので、実質水泳隊員4人で、ですね。この研修会を無事やり遂げることができま

した。

エクアドルのコーチ達にも得るものがあったと思いますし、僕らも学ぶことができました。大掛かりな研修会でしたが、セッティングをしてくれた隊員にはとても感謝しています。もちろん、参加者全員にも感謝しています。夜行バスで9時間近くかけて参加してくれたコーチもいました。

終始エクアドルのコーチたちから聞かれた声が「エクアドルは水泳ではとても遅れている」、「変わらなければいけない」でした。その気持ちがあればきっとエクアドルの水泳は良い方向に向かっていくと思います。今回の研修が2020年に繋がれば僕ら水泳隊員にとってこれ以上無い喜びとなるでしょう。

今回もまた感謝です。



←研修会序盤。マイクが機能せず拡声器で講座を行いました。二度となり貴重な経験になるでしょう。

研修後の集合写真です。講師から一人一人に修了証を手渡ししました。本当にたくさんの方々に来てくださいました。→

